# 精密金型部品メーカーとして常に限界に挑戦する

超硬合金専門の加工メーカーであるナカヤマ精密の新工場「ナカヤマ精密テクニカルセンター」が熊本県菊陽町に1日、完成した。同社は40年以上にわたり蓄積した加工ノウハウを基盤に、21世紀の未来社会を拓く若者の技術集団。「不可能を可能にする」をモットーに最先端技術の確立に向かって突き進んでいる。中山慎一社長の新工場やモノづくりへの思いを、日刊工業新聞社社長井水治博が聞いた。

## 新工場完成、さらなる飛躍へ

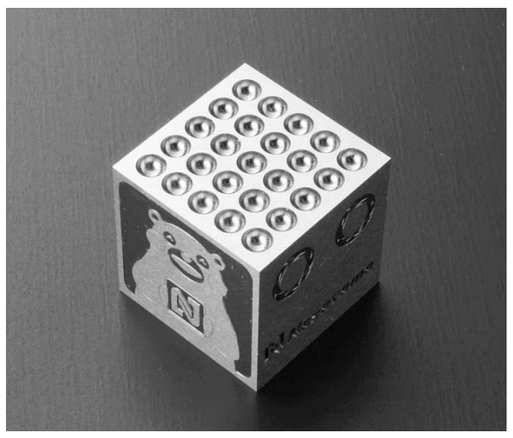
### ナカヤマ精密社長　中山　慎一氏

**井水**　順調に事業を拡大されています。

**中山**　当社は私の父である初代社長、現会長が大阪で創業したのがスタートです。線引きダイス加工に始まり、「この部品加工ができないか」といった相談に応じていくかたちで仕事の種類が増えていきました。住宅用のコンセントとかスイッチなどの配線器具から電子部品、半導体関連部品、金型部品などを手がけています。

熊本に進出したのは1984年です。熊本出身の父が故郷のためになればと最初の工場建設を決めました。当時は大手半導体メーカーが熊本に進出し始めたころ。地元メーカー向けにコレットと呼ばれるIC搬送に使う治工具などを作り始めたのが熊本でのスタートです。半導体の好景気を背景に受注は順調に伸び徐々に仕事は増えていきました。その後、九州はシリコンアイランドと呼ばれるほどに半導体産業が盛んになっています。

これまで会社が成長できたのは、加工精度を絶えず高めてきたからです。年々高まっていくユーザーの品質要求に応えてきたためとも言えます。最初は十数人でスタートした熊本工場は5年ほどの間隔で増床や増員を繰り返してきました。今では熊本の工場は3棟に増え、従業員数は150人を超えています。8割が熊本県出身者で熊本大学の卒業生もいます。



レンズ用金型部品

#### 品質要求に対応

#### 一段と差別化を

**井水**　新工場建設を決めるまでの経緯を聞かせて下さい。

**中山**　今回の工場建設は08年のリーマン・ショック以前からあった会社の飛躍のための計画の実行です。当社もリーマン・ショックによる受注減に見舞われました。現在も六重苦とも言われる厳しい経営環境にあります。しかしライバルメーカーとの差別化を一段と進めるには今やるべきだと判断して建設を決めました。

今回は土地の選定、取得から取り組んでいます。需要増に対応した従来の工場増設とは全く異なる将来のための工場という姿勢です。既存工場も適切な時期に建て替えて発展させていきたいと考えています。

## ナノレベルの加工精度実現

### 「日本にモノづくりを残したい」

超高精度の金型部品

日刊工業新聞社社長　井水　治博

**井水**　新工場の特徴は何ですか。

**中山**　ナノレベルを実現する加工精度をビジネスとして成り立たせようとしています。高精度に対応する日本のメーカーの機械をそろえるだけでなく、適切な工場環境で動かすことが必要です。温度と湿度は一定に保つ恒温恒湿管理を行います。温度はプラスマイナス0・5度C以内、湿度は同じく10％以内の変動に抑えるシステムです。既存工場でも温度管理を行っていますが新工場ではレベルを上げます。工場の一部はクリーンルームレベルの作業環境を整えています。

新工場は次世代製品向け工場という位置付けです。具体的分野としては非球面光学レンズ生産用金型や燃料電池のセパレーター、スマートフォンやタブレット端末に使われるコネクタ生産用金型、発光ダイオード（LED）関連の受注を目指します。現在既に手がけていますが医療分野や航空宇宙分野も伸ばしていきたいと思います。金属ではなく、カーボンや樹脂の部品に関しても加工には金属の金型が使われ、ナノレベルが必要になるでしょう。

ナノの加工精度を確認、保証することも重要です。測定装置や電子顕微鏡を導入するなどして従来は認識できなかったようなレベルの測定体制を整えています。それらの新しい設備を使いこなす人材の育成も産学連携で始めています。

#### 新たな受注開拓

**井水**　新工場で目指す会社の姿はどのようなものですか。

**中山**　まず当社が主体性を持って事業を展開できるようにしたい。それにはユーザーである大手メーカーと対等に付き合える技術を持っていなければなりません。ライバルに対しては、それを上回る技術を確立することが必要です。ナノレベルの加工がどれくらいのニーズがあるか未知数ですが新たな加工ニーズとなって受注を開拓するものとなるような技術に育てたい。そしてユーザーに技術を提案できるような存在となりたい。目指しているのはヨーロッパ型のメーカーです。彼らはいつの時代もこつこつと自分たちができることを見据え、無理をせず、自分たちのモノづくり精神を守っています。

**井水**　企業の海外生産が増え、国内産業の空洞化が懸念されます。

**中山**　収益性だけを考えれば当社も海外に進出した方がいいのかもしれません。しかし私は働くことと生活することは一体だと考えています。多くの企業が海外に行ってしまい、生活のベースがある国内に働く場がなくなっていけば日本の社会がどうなっていくのか心配です。当社は働く場所を国内に維持するため、これからも国内生産に軸足を置くことを変えるつもりはありません。将来は作るモノが変わるかもしれませんが国内でしかやれないモノづくりをしていれば活路は見いだせると確信しています。

日本製を買いたいと思ってくれる人が考える日本製品とは部品ひとつ一つも日本製のものだろうと思います。日本のメーカーの製品でも中身の部品が海外製であったら日本製でなくてもいいと思われても仕方ないのではないでしょうか。製造業の国内回帰の機運が高まってほしいと願っています。

これまでにない技術を新工場で実現しようとしているのは日本にモノづくりを残したいという思いもあるからです。これからも技術と品質を評価していただいたお客さまに買っていただきたい。今は価格が安ければいいような風潮があります。しかし当社はむやみな安売りはせず、価値をPRしていきます。製品に単に安さを求める場合と、高くても品質を求める場合がありますが後者を大事にします。これまで会社を続けてこられたのも価格に見合う品質を評価していただいたお客さまに支えられてきたからです。これからもそのようなお客さまとともに発展していきたいと思います。

**井水**　ありがとうございました。

NAKAYAMA ナカヤマ精密株式会社

【大阪本社】
〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原2-7-38新大阪西浦ビル801号
TEL(06)4807-1500　FAX(06)4807-1515

【東京営業所】
〒211-0006 神奈川県川崎市中原区丸子通1-653-7藤和シティコープ新丸子201号
TEL(044)430-6961　FAX(044)430-6962

【熊本工場】
〒861-2402 熊本県阿蘇郡西原村大字小森3606番地
TEL(096)279-3737　FAX(096)279-2055